

## 平成 25 年度 第 1 回二宮町環境審議会 会議録

日 時：平成 25 年 7 月 30 日（火）午後 2 時～4 時

場 所：二宮町役場 第一会議室

出席者：藤田会長 / 大矢副会長 / 亀井委員 / 岡田委員 / 古澤委員 / 西山委員 / 土谷委員  
三橋委員 / 桑田委員  
長尾町民生活部長

欠席者：飯田委員

事務局：筑紫生活環境課長 / 須田生活環境班長 / 西山主査 / 青柳主事

傍聴者：1 名

### 1. 開会

### 2. あいさつ

（会長より）

暑い中、お集まりいただき、ありがとうございます。

今日は二宮町第二次環境基本計画に基づく前期実施計画の去年の実績を評価する審議会です。PDCA、つまり Plan、Do、Check、Action のサイクルを描きながら運営しているという考えがあります。Check は評価で、2 つの方法があります。1 つは自己評価という方法、これは自ら運営し、さらに自らその Plan、Do について Check する、そして Action に繋げる方法です。もう一つは第三者評価といって、外部の者がその組織の環境配慮の活動がどうなのかを Check する、それを見返して次のアクションに繋げるという方法です。

二宮町第二次環境基本計画については、まず町が自己評価を行い、その結果が事前に皆様に送付されている資料に示されています。環境審議会としては、町の方で Check したものを含めて、二宮町第二次環境基本計画実施計画の実施の状況に第三者的な立場から意見を申し上げるというイメージで考えていただければと思います。

評価の仕方もいろいろありますが、ただネガティブにここがいけない、あそこがいけないというだけでなく、良い面は良い面、悪いところはどこが悪い、というように建設的なご意見を委員の皆様からいただければと思います。本日は、よろしく願いいたします。

### 3. 委員の委嘱等について

○委員の委嘱について説明

地区長連絡協議会 川上氏、校長会 中澤氏の解職により、大矢氏、桑田氏に、新たに委嘱した。また、元副会長の川上氏に代わって大矢氏が互選により副会長となった。

○委員の自己紹介

4. 議題

- (1) 平成 24 年度二宮町第 2 次環境基本計画実施計画の進捗状況について
- (2) その他

- (1) 平成 24 年度二宮町第 2 次環境基本計画実施計画の進捗状況について

＊事務局から資料修正点、資料 1 の説明

【質問・意見】

会 長：ただ今、説明された修正点について、特にご意見が無ければこのまま修正してよろしいでしょうか。

委 員：意見無し。

会 長：では、これで修正をお願いします。

＊事務局から資料 2、資料 3 の説明

【質問・意見】

会 長：事務局から資料について説明がありましたが、ご意見があればお願いします。

委 員：部門ごとに分かれて行う評価に加え、全体的なまとめの評価はその後に行うのですか。

事務局：町の評価はこれで一通りまとまっています。例えば、各課で付けた評価 B に対し、委員の皆様が「これは C であろう」と思ったとしても、評価を直すということという事は行いません。直してしまうと町としての自己評価が分からなくなってしまうため、最後の VI 章で、環境審議会としては、この事業について C という評価をした、ということを確認に記載します。V 章は事務局でまとめているので、そこについてはご意見があれば伺います。今回はご意見だけ仰っていただき、次回それを発表し合いまとめていくというイメージでおります。

委 員：前期 4 年間の 4 つの基本目標について、前期としてどういうマイルストーン、累計目標を作って進んでいるのか、その部分について伺います。

事務局：前回の会議でもいろいろなご意見をいただきました。結論は、単年度ごとに目標の確認は行わず、前期計画最後の年度である平成 27 年度の評価をするときに前期計画全体の目標値と照らし合わせた評価、前期計画の総まとめを行う、という話になっています。現状としては 4 つの基本目標のまとめは V 章に記載しています。

会 長：評価シートをご覧いただくと平成 27 年度の目標が記載してあります。

委 員：平成 27 年度の目標にすぐに到達する場合もあるとは思いますが、ほとんどの場合は毎年ステップを踏んでその目標値に達するように、目標を設定できるのではないのでしょうか。各年の目標を達成したかを見ると、成果が見えるのかと思います。

事務局：事業ごとに毎年の計画があります。毎年事業ごとに A、B、C という評価を行って

います。その事業の積み重ねが基本目標の評価になります。それを4年間続け、最後の年度にどうであったかを評価します。基本目標ごとに、数値的目標が出ているわけではありません。下からのボトムアップで積み重ねていくという方法で評価を行います。

委員：例えば、3点を目標としていたら、途中の年度で2.1点、現状値が2点であったら次年度が2.2点といったように、ステップアップの目標値を設定できるものもあると思います。そういうイメージでは無いのですね。

事務局：そのようなイメージではありません。

委員：年度ごとに目標値を設定した方が、達成感があり、担当課にも分かり易いです。

会長：その点については、今日の部会の審議の中でもお話いただければと思います。評価シートを見ると、平成27年度の目標を既に達成しているものもあります。その場合、目標値をもう一度設定し直した方が良いというご意見や、目標値を維持することが大変だから、維持する方向で考えるべきだというご意見など、いろいろあるでしょうから、よく議論していただければと思います。

それから、資料2の評価のシステムについての工程表は非常に良くできていると思います。審議会の位置付けがはっきりしています。審議会は審査、評価する機能を持っています。工程表を見ると、評価したことが次年度以降の予算や事業計画にどう反映してくるのかという仕組みが分かります。我々審議会の役割はここにあると思いますので、この工程表に沿って役割を果たしていきたいと思います。また、事務局から評価点数は、一つの指標であるというお話がありました。これはいろいろなご意見があろうかと思います。Aが優、Bが良、Cが可、Dが不可ということになるのでしょうか。この点数の付け方も、いろいろご意見があると思いますので、議論していただきたいと思います。そんなことも含め、一つの新しい取り組みですので、今日は是非、皆様に質問、意見を出していただき、それを事務局でまとめていただいて、次回29日が本格的な詰めの審議会になるとご理解いただければと思います。それでは早速、部会に分かれて意見を交換してください。

委員：それぞれの部会担当がありますが、担当の部会以外のところに意見がある場合はどうしたら良いでしょうか。

事務局：それについても、8月9日までにご意見いただければ、第二回の会議資料に載せさせていただきます。

会長：今日、意見を出しきれないと思います。その分はメモ書きでも良いので文章でご提出ください。

\*部会に分かれて意見交換

◎生物多様性の形成部会

構成員：藤田会長/西山委員/三橋委員/長尾町民生活部長/青柳主事

意見要旨

●1-2-④遊休・荒廃農地対策事業【新規】

・菜の花やオリーブの栽培に遊休・荒廃農地を活用することで地域の循環型社会の実現に繋げ、地産地消を行うという視点で評価してほしい。

・平成 27 年度目標が遊休・荒廃農地の解消面積 0.5ha のところ、平成 24 年度に 3.5ha 解消しているのだから、評価は B でなく A で良いのではないか。B という評価をした説明が欲しい。補助金を使った解消ができなかったとしても、農業者、県、農協との連携が良かったなら、そこを評価して良いと考える。評価シートから連携の部分がどうであったか読み取ることができると良い。

●1-2-⑤緑の基本計画の推進

・補助金の確保ができず C という評価がされているが、補助金を得るために何をしたか、協力・連携等についても詳しく記載し、そのことも合わせて評価してほしい。

●1-2-⑥二宮せせらぎ公園におけるホテル観賞会

・ボランティアとの連携や、維持管理について詳しく評価シートに記載し、評価してほしい。

●1-3-⑧葛川改修計画（県）

・無理なことをお金をかけて行うのは難しく、また地域の住民が一緒に行わないと利用されない設備になってしまうと思う。しかし、あきらめ感が漂っているのが気になる。

●1-4-②海岸清掃（かながわ海岸美化財団）

・目標の設定の仕方に問題があるのではないか。指標そのものの捉え方を、「ごみが毎年減ることを目指す」のではなく「ごみを拾う量を増やす」というように変更する必要がある。

●1【生物多様性の保全】 多様な緑と水による自然の恵みが豊かなまち 全体進捗、評価、課題等についての意見

・高齢化が進んでいる中、高齢者にまちづくりに参加していただきたい。そのため里山、里海、里川全てバリアフリーになるように事業を進めてほしい。

・各課とも生物多様性の保全という視点を入れて事業評価をしてほしい。整備するとき生物多様性の保全のためにどういった取組みを行ったか、配慮をしたかを評価シートに記載してほしい。

・1-2.丘陵地や谷戸などの保全で、自然災害対策の施策にしていく必要がある。

・1-4.二宮海岸の保全と魅力の向上で 6 つの事業が連携していないことが気になる。

・補助金の確保ができなかった、予算の確保ができなかった、ということがそのまま評価に繋がっているところについて、補助金を得るために何をしたかということも詳しく記載し、そのことも合わせて評価してほしい。

●計画全体への意見

- ・評価シート

他団体、県、国、他課等との連携がどのようなようであったかも詳しく記載し、評価シートに反映してほしい。

◎循環型社会の実現部会

構成員：大矢副会長/亀井委員/古澤委員/須田生活環境班長

●2-1-②水分ひとしぼり運動

- ・ごみが減量化しているが、水分率は上がっている。

ごみ分析の調査方法を見直しすべき。調査する日、地区、天候などを統一し、異常値が出ないようにしてもらいたい。

●2-1-③マイバック・マイボトル等の啓発【新規】

- ・マイバッグの利用率についての実態を調べてもらいたい。

●2-2-①簡易粉碎機の貸出（剪定枝）

・目標値が低い。チップパー機を貸し出せる上限くらいを目標値にすべきであり、少なくとも30件から50件は目指すべき。

●2-2-②町内でのリユース・リサイクルの推進

・不用品登録制度については、利用しやすいシステムを作らないと普及しない。よく検討してもらいたい。

●2-2-③生ごみ堆肥化容器購入補助金

- ・補助実績も伸びており、評価できる。

●2-2-④廃食用油回収事業（石けんづくり）

・廃食用油の収集が始まり、リサイクルもできているので、石けんづくりの事業については、再考してもらいたい。

●2-2-⑤グリーン購入の推進

- ・事業者、小中学校に大量購入するときの割合を調べたらどうか。

●2-3-②ごみ置場散乱防止対策（カラスネット配布）

・カラスネットはかなり浸透している。今後配布枚数が少なくなる可能性が高い。配布枚数が減り、事業評価が低くなるのは、おかしいので、配布枚数を指標とするのはいかがか。

●2-4-②不法投棄物の撤去

- ・不法投棄される前の対策を検討すべき

●2-5-①地元製品の消費促進【新規】

- ・ラディアン朝市が入っていない。どうしてか。

●2-5-③地元産品の循環型活用の促進【新規】

・ふれあい農園は、コンポスト等の生ごみ処理機を使用する者しか利用できないような条件設定をする。

●計画全体への意見

・評価シート

段階的な目標値が必要。年度毎の目標値の記載をすべき

◎低炭素社会の形成部会

構成員：岡田委員/土谷委員 / 桑田委員/筑紫生活環境課長/西山主査

●3-1-①ムダな電力消費等の節約啓発【新規】

子どもの環境教育にも繋がるので学校へソーラーパネルの設置を推進してほしい。

●3-1-③公用車におけるエコカーの導入

・公用車に EV 車を導入するだけでなく、町民や観光客への PR にも繋がるように、EV 車への購入補助、EV 充電設備の設置などの目標を掲げてほしい。

●3-1-⑤バリアフリーの推進

・道路拡幅工事が計画通り実施できたため評価 B となっているが、自動車の利便性が高まるだけで公共交通への利用転換に結びつかないと思う。歩いて移動しやすい歩道を整備したという評価視点が必要である。

●3-1-⑥公共交通への利用転換の促進

・目標値がコミュニティバスの乗車人数で評価するとなっているが、コミュニティバス事業単独では町全体の把握に繋がらない。いかに交通不便地域を減らせるかという視点が必要である。また、利用者数 100 人/日を目標値にする根拠を明確にしてほしい。

●3-1-⑦駅前駐輪場の整備（利用者の利便性向上）

・ハード面を整備し駐車台数を確保するだけでは、低炭素社会の形成に結びつかない。マイカー通勤から自転車通勤へ切り替えさせるような施策が必要である。

●3-2-①太陽光エネルギー（ソーラー・温水器など）利用の啓発

・平成 34 年度までに町内にソーラー発電所等を設置するなど、目で見てわかる目標を掲げてほしい。

●3-2-②自然エネルギーに関する情報収集・提供【新規】

・情報を HP で PR したということだけでは事業効果の具体性がない。目標設定を変えた方がよい。せめて、HP がどれだけ見られたかカウントするなどレスポンスがわかる目標値にできないか。

●3-3-①建築物の緑化の推進

- ・小学校での実施には課題があり難しい。他の公共施設にも積極的に緑化に取り組んでほしい。

● 3 【低炭素社会の形成】地球環境の保全に取り組むまち 全体進捗、評価、課題等についての意見

- ・目標の具体性に欠ける部分があるため、町で低炭素社会の実現に向けて柱となる事業を重点施策として設定し、その成果により施策全体を評価した方が評価が明確になる。

- ・太陽光発電や自然エネルギーの活用は設置補助や啓発だけではなく、小学校の屋根などの公共施設に設置することで、明確な実績として低炭素社会の形成に繋げることができる。また、災害時の発電利用や環境教育にも有効であることから今後の事業化を期待する。

- ・公共交通の利用の促進と新エネルギーの活用などの複数の事業をリンクさせる（EV 充電設備を公共施設に設置し、デマンドタクシーに EV 車を活用する。駅前で自転車シェアリングし、観光客に活用していただく。など）ことで、効率的に町民への意識啓発につながると思われる。今後の事業化を期待する。

● 計画全体への意見

- ・事業及び達成状況の表において、進捗状況が一目でわかるよう目標値と目標達成度を明示してほしい。

- ・事業の優先順位をつけ、町（生活環境課）としての事業のランク付けが必要である。